

雑誌・新聞記事からみる「丁寧な暮らし」の表象とその背景

宝井ちなみ

1. 研究背景と目的

2000年代前半から「丁寧な暮らし」という言葉が様々なメディアで取り上げられるようになった。雑誌や新聞記事を見ると、この言葉は1980~1990年代に登場して以来、現在に至るまで様々な記事の中で取り扱われている。誌面には、この言葉と共に手作りの洋服や整理整頓された部屋、凝った朝食の写真などが並んでいる。

しかし、そもそも「丁寧な暮らし」とは何だろうか。少し前の時代の「お母さん」がしていたような家事を実践することなのか、環境に配慮した生活をする事なのか、好きなものに囲まれて暮らすことなのか、その定義や概念は非常に曖昧である。

そこで本研究では、雑誌と新聞を中心としたメディアの中で「丁寧な暮らし」がどのように表象、定義されてきたかを調査することで、メディアにおける「丁寧な暮らし」とはどのような暮らしを指すのかを明らかにし、「丁寧な暮らし」ブームの社会的な背景について考察することを試みる。

2. 研究方法

研究対象は、「丁寧（ていねい）な暮らし」または「丁寧（ていねい）に暮らす」という言葉をタイトルもしくは本文に含む月刊誌、週刊誌、全国紙（読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、日本経済新聞）とし、分析対象期間は、対象語の初出から2021年11月30日までとした。雑誌記事の収集には、雑誌記事索引データベースである「Web OYA-bunko」、新聞記事の収集には、各紙データベースを利用した。分析は、(1)対象語が出現した記事を用いて、年代ごとの変化や表記方法による出現時期の特徴などをみる計量的分析と、(2)筆者自身が実際の記事を読み込むことで得られた情報をもとにした質的分析の2つの方法で行った。

3. 研究結果

(1) 計量的分析の結果として、「丁寧（ていねい）な暮らし」または「丁寧（ていねい）に暮らす」という言葉が出現した記事を抽出したところ、有効記事数は雑誌記事が95件、新聞記事が5紙合計で249件であった。雑誌と新聞共に対象語の初出は1999年以前でありながら、2015年から2019年にかけての5年間で記事数が大幅に増えていることから、この時期に「丁寧な暮らし」ブームが起きていたと言える。また、対象語には複数の表記方法があるが、漢字表記の「丁寧な暮らし」が雑誌

と新聞共に出現件数が最多であった。

(2) 質的分析の結果として、以下の7つが明らかになった。①「丁寧な暮らし」に対する認識は記事ごとに異なり、言葉の定義が曖昧であること。②「丁寧な暮らし」記事は、日常の中に隠れた幸せを発見する「幸せ見出し型」と、生活に「丁寧な暮らし」を象徴するアイテムを取り入れることを勧める「ていねい演出型」の2つに大きく分類できること。③「丁寧な暮らし」を目指す背景には、慌ただしい日常やSNS疲れが存在していること。④「丁寧な暮らし」をコンセプトに打ち出した商品やサービスが、企業から多数発売されたこと。⑤「丁寧な暮らし」が良いとされる風潮に疲れる人が現れたこと。⑥震災や疫病などの非常事態が、人々に「暮らし」を強く意識させるきっかけになったこと。⑦真逆の発想と捉えられる「丁寧な暮らし」と「断捨離」には本質的な共通点があること。

4. 結論と考察

「丁寧な暮らし」は、雑誌や新聞記事の中で様々な解釈がされていることが明らかになった。メディアで表象されるような「丁寧な暮らし」を行うには、ある程度の金銭的・時間的な余裕が求められるため、「丁寧な暮らし」を「良いもの」とする傾向は、それを実践できる人と実践できない人に分けてしまったという側面がある。

その一方で、以前から人々の中にあつた意識に対して「丁寧な暮らし」というラベリングを行い、新たな市場を生み出すことで、忙しい日常に埋もれた「暮らし」を幅広い世代の人々に再発見させる機会をもたらしたとも考えられる。

さらに「丁寧な暮らし」は、様々な解釈が可能な言葉である分、一過性のブームとして終わることなく、時代や個人に合わせてその性質を変化させることができるため、今後も進化し続ける言葉であると推測できる。

参考文献

1. 米澤泉『「くらし」の時代 ファッションからライフスタイルへ』勁草書房、2018
2. 吉田則昭『雑誌メディアの文化史：変貌する戦後パラダイム [増補版]』、森話社、2017
3. 松浦弥太郎『暮らしのなかの工夫と発見ノート 今日もていねいに。』PHP 研究所、2008